

行政

職員が利用するITインフラの運用や、新しいシステムの導入を行っています



河合 輝

情報企画課

平成 25 年 採用 職員厚生課
平成 27 年 森林文化アカデミー
平成 30 年 現所属

入庁して考え方が変わったことはありますか

入庁前は、公務員の仕事に対し、自身のデスクで事務作業を淡々と行うイメージがありました。しかし、実際に入庁し、福利厚生担当課や学校事務、庁内のITインフラ運用を経て、いずれも利用者とのコミュニケーションを十分に取、一緒に目指すものを作り上げていくことが重要であることに気が付きました。そのようにして良い成果が出せたとき、仕事に対する充実感を感じています。

現在の仕事内容を教えてください

職員が利用するITインフラの運用や、新しいシステムの導入を行っています。今では当たり前になっているパソコンや情報システムですが、機器の故障やシステムのトラブルを未然に防ぎ、「当たり前」を支える仕事をしています。システムの導入では、どんなシステムなら職員にとって使いやすいか、仕事がより効率的になるかを考えています。職員から「あのシステムがあって助かった」、「便利になった」と声をかけてもらうこともあり、やりがいを感じています。

困難な事例があったときにどうやって解決されましたか

予期せぬトラブルやアクシデントが発生することもあります。そんな時は、まずは状況を正確に把握し、すぐに上司や先輩職員に相談することが重要です。自分の力のみでは解決が困難であることも、経験豊富な上司や先輩職員がヒントをくれ、解決に導いてくれます。何はともあれ、自分一人で抱え込まず、すぐに周りに助けを求めることが大事です。

今後実現したい夢はなんですか

時代の流れもあり、今後ますますITの重要性は高まっています。ITを活用した庁内業務の効率化は、職員のみでなく、県民の皆様の満足にもつながっていきますので、次々登場する新しい技術や仕組みについて勉強し、どんどん取り入れていきたいと考えています。

行政

魅力ある「清流の国ぎふ」づくりに貢献していきたいです



西本 美菜子

廃棄物対策課

平成 19 年 採用 教育委員会教職員課
平成 22 年 中濃振興局
平成 23 年 人づくり文化課
(平成 26 年 再任休職)
平成 27 年 女性の活躍推進課
(平成 28 ～ 29 年 再任休職)
平成 30 年 行政管理課
令和 2 年 廃棄物対策課

岐阜県庁を志望された動機を教えてください

大学時代に初めて県外で暮らし、岐阜県がとても暮らしやすく魅力のある地域であることを実感しました。そこで、初めて自分のふるさとに愛着を持ち、県庁で働きたいとの考えに至りました。また、ライフステージ問わず、経済的に自立し社会とつながっていたいという思いがあり、多様に活躍される先輩方がいる県職員に魅力を感じました。

仕事をする上で大切にしている考え方やポリシーを教えてください

県職員は組織で仕事をするため、自分が行った仕事は岐阜県として行った仕事であり、簡単な業務でも結果は重大であることを常に忘れないよう掛けています。反対に、困難な仕事であっても、孤軍奮闘する必要はなく、周りからの協力を得るためにも早めの「ほうれんそう(報告・連絡・相談)」を心掛けています。

仕事とプライベートをどのように両立させていますか

二児の子育て中なので、配偶者とは日頃からお互いの仕事状況の把握に努め、両親を含めた繁忙期のフォロー体制について共有しています。また、職場には、期首面談等の折に触れ、自分の家庭状況を率直に伝達しています。

今後実現したい夢はなんですか

県内外問わず、ふるさととして岐阜県に愛着を持ってくれる人を増やすことです。そのために、どの分野の担当になっても、県民目線での業務遂行を常に意識し、魅力ある「清流の国ぎふ」づくりに貢献していきたいです。

福祉

その人なりの「幸せ」や「豊かな人生」を実現できる、そんな社会を実現したい



安藤 喜昭

中央子ども相談センター

平成 14 年 採用 わかあゆ学園
平成 16 年 中濃子ども相談センター
平成 21 年 中央子ども相談センター
平成 23 年 子ども家庭課
平成 26 年 西濃子ども相談センター
平成 31 年 現所属

岐阜県庁を志望された動機を教えてください

大学卒業後、民間企業に就職したものの今一つやりがいを見いだせず、転職を考えました。もともと社会問題に関心があり、何か世の中のために自分ができることはないかと考えていたこともあり、「社会的に弱い立場の人達」を手助けするような仕事がしたいと思ひ、志望しました。

仕事をする上で大切にしている考え方やポリシーを教えてください

児童虐待相談への対応など、保護者の方との間で意見が対立したり、緊張する場面は多いですが、お互いに考え方は違っても「子どもの幸せを願う気持ちは変わらない」、「子どもは変化の可能性を秘めている」という信念のもと、相談援助活動を行っています。そして「コップに水があと半分しか無い」ではなく、「まだ半分水が残っている」と考えるようにしています。

仕事とプライベートをどのように両立させていますか

仕事の後や休日には時間を見つけてフィジカルトレーニングに励んだり、子どもとカードゲームに興じたり、好きな映画を観るなどして意図的にマインドの切り替えをしています。

今後実現したい夢はなんですか

子どもたちと、子どもを育てている親たちが、周りから温かく見守られ、たとえ不幸な出来事や失敗があっても必要な手助けを得られて、その人なりの「幸せ」や「豊かな人生」を実現できる、そんな社会を実現したいと思ひます。